



RENPOUDO  
SPRING  
COLLECTION

卯月  
優遊



奥田連峯堂

TEL:075-561-3655

FAX:075-525-1148

営業時間：11時 - 18時

定休日：毎週水曜

〒605-0073 京都市東山区祇園町北側244

<https://www.renpoudo.com>

✉ [renpoudo@mth.biglobe.ne.jp](mailto:renpoudo@mth.biglobe.ne.jp)

HPIはこちら



1.

## 古清水 猩々香炉

江戸時代

径15cm×22cm 高さ15cm

猩々（しょうじょう）は、能の演目として有名です。中国唐の潯陽江の海中に住むという霊獣である猩々が、親孝行の高風に、くめども尽きぬ酒壺を与えるという話です。

本作品も猩々がお酒が入った壺を抱えています。蓋には透かしが入っており、蓋が外れるようになっています。蓋の裏は焼け跡があります。猩々の頭の側面に焼成中にできたスと呼ばれる小さな穴が開いています。蓋と身の合口と底に焼成中にできた窯キズがあります。





2.

## 古染付 兎文輪花皿

中国 明時代（17世紀）

径20.5cm 高さ3cm

中国 明時代末期 景德鎮民窯では古染付・祥瑞・南京赤絵と呼ばれるやきものが作られ、日本に渡ってきました。江戸時代初期の日本では、茶人が新奇な茶道具や飲食器を注文焼成させる風潮もあり、日本人好みの茶道具や飲食器を中国へ注文したと考えられています。

見込みに兎が描かれています。お皿の縁には、釉がはじけた、いわゆる虫喰いといわれる部分があります。



3.

古染付 棕櫚卍菱文七寸皿

中国 明時代 (17世紀)

径22cm 高さ3cm

見込みに太湖石に棕櫚、縁文様は紗綾形、青海波を交互に地文とし、四方に窓絵を描いた祥瑞風な絵付け構成です。見込みの余白には変わった菱形に卍文様を描いていますが、どのような意図かはわかりません。

「古染付 河原正彦 著 京都書院」に類似品が掲載されています。



4.

古伊万里 人物図角瓶

江戸時代

胴径11cm×11cm 高さ25.5cm

色絵と金彩を用いて、梅、竹、桜、紅葉や女性の姿が描かれています。  
大変煌びやかで、飾り映えします。



5.

## 呉須扁壺

河井 寛次郎

共箱

昭和

口径15cm×12.5cm 胴径21cm×17cm 高さ25.5cm

大正から昭和の時代、民藝運動の中心的役割を担った陶工 河井寛次郎の作品です。

深い青色の地に鉄葉の黒色に近い濃い茶色で文様が描かれています。

胴部分には小さなハジケがあります。



6.

## 飴釉塗分喰籠

河井 寛次郎

河井紅葩極箱

昭和

径21.5cm×15cm 高さ13cm

飴釉の黄色の地に辰砂の赤色と呉須の青色、鉄釉の茶色を用いて文様が描かれています。

蓋の形が特徴的です。少しだけ山形に盛り上がっています。蓋の角は丸みを帯びてほんの少し飛び出た形をしています。

高台に焼成中にできた窯キズがあります。



7.

## 呉須筒笹紋筆筒

河井 寛次郎

河井つね極箱

昭和

径10.5cm×10.5cm 高さ15cm

呉須の青色の地に筒描きで笹の文様が描かれています。

寛次郎の妻 つねの箱書きがあります。

昭和49年11月25日に書かれました。

胴の下の方に焼成時にできた小さなスがあります。



8.

## 辰砂陶筒

河井 寛次郎

河井つね極箱

昭和

径12cm 高さ11cm

菱花文様が蓋の甲部分に描かれています。

「京都国立近代美術館所蔵作品集 川勝コレクション

河井寛次郎」図録に類似品が掲載されています。

河井寛次郎の妻、河井つねによる箱書きがあります。



9.

### 鉄砂赤絵扁壺

濱田 庄司

共箱

昭和

人間国宝

口径7cm 胴径13.5cm×17cm 高さ22cm

片面には「春」「去」、もう片面には「春」「来」と書かれています。

こちらの壺の形は李朝の扁壺の影響が見られます。



10.

鐵絵角皿 5客組

濱田 庄司

共箱  
昭和  
人間国宝  
径15cm×15cm 高さ3cm

縁が鍔縁状になっています。お皿の見込みには濱田庄司のトレードマークでもある砂糖黍を模した糖黍文様が描かれています。  
見込みに目跡があります。目跡とは器を重ねて焼いた際の跡です。



11.

## 色絵鳥文盒子

バーナード・リーチ

共箱

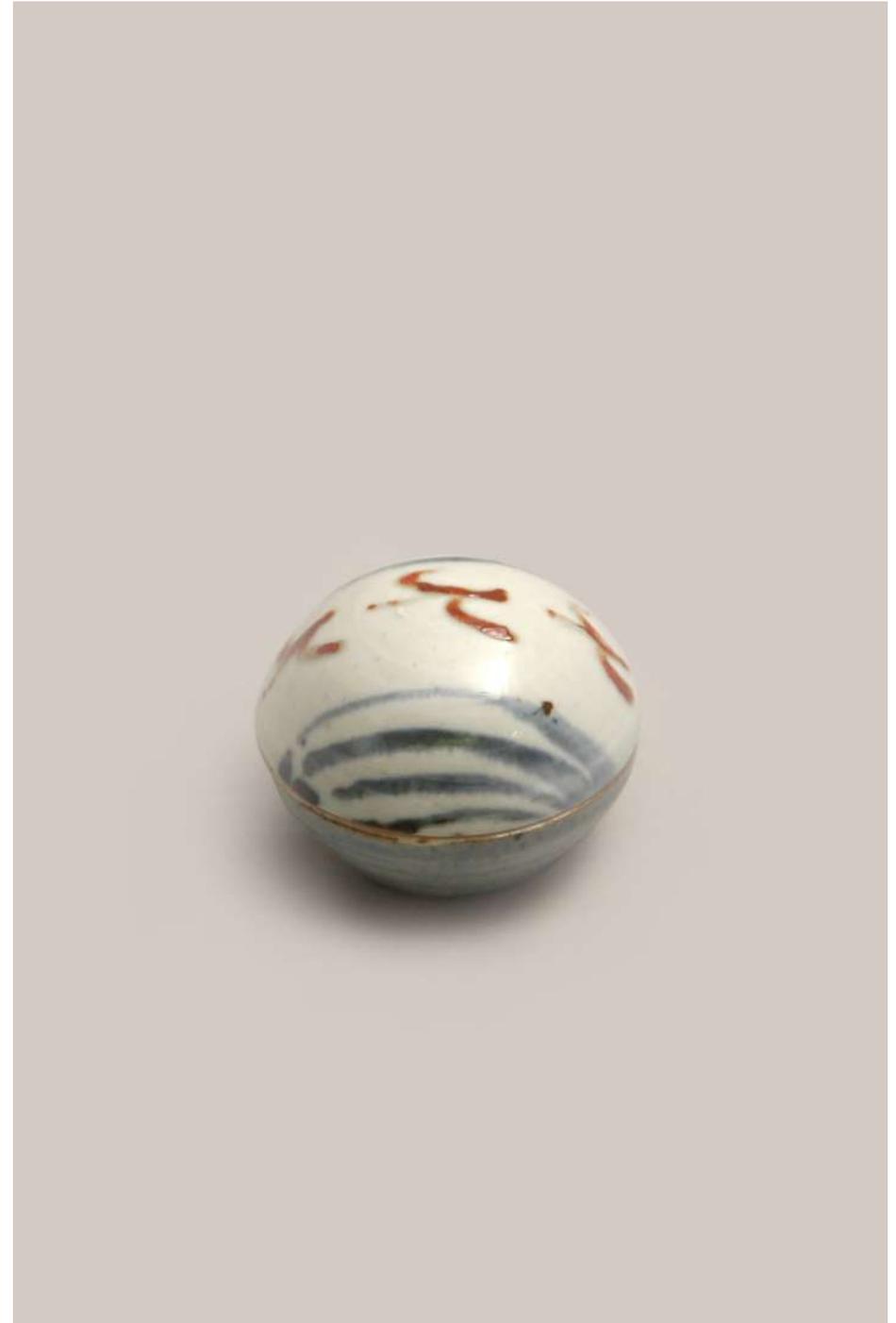
1968年

径8.5cm 高さ6.5cm

赤色の釉薬を用いて鳥が飛んでいる様子が描かれています。  
高台内にBLとリーチポタリーの印があります。  
共箱には、「B.L. 1968」と書かれています。

「東と西の出会い 生誕125年 バーナード・リーチ展」図録  
や「作陶100年記念 バーナード・リーチ展（日本民藝館）」  
図録に類似品が掲載されています。

リーチは、香港生まれの英国人です。幼少期は日本で過ごし、その後、英国に帰国しました。そして、日本への憧れから再来日しました。一緒に英国で窯を築いた濱田庄司をはじめ、柳宗悦、河井寛次郎、富本憲吉などと交流し、同志として民芸運動にも参加し、影響を与えました。



12.

## 染付香炉

6代 清水 六兵衛

共箱

昭和

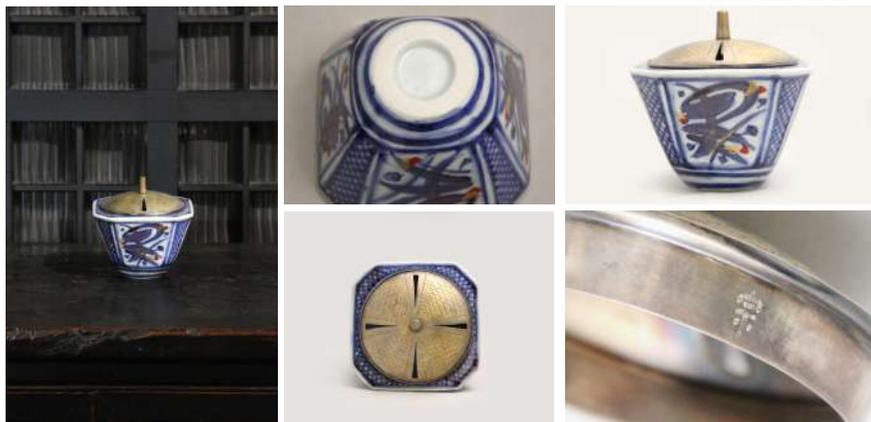
径10.5cm×10.5cm 高さ10.5cm

側面に鳥が描かれた香炉です。大変厚みがあり、どっしりとした香炉です。

抽象的な文様が染付に金彩と赤絵で装飾されています。

高台に「清」印があります。

6代清水六兵衛は、江戸時代中期以来の清水焼陶工の名跡です。六代六兵衛は、京都市立絵画専門学校で、竹内栖鳳や山元春挙らに日本画を学びました。



13.

### 金霧銀彩象嵌兎文八陵角水指

坪島 土平

共箱

昭和 - 平成

径19cm 高さ19cm

胴の中央部分に紫色の釉薬を用いて兎が描かれています。  
反対側には同じく紫色の釉薬を用いて鳥が描かれています。  
水指の内側にも青色の釉薬が流し掛けられており、見どころ  
になっています。

高台内に「土平」の彫があります。

蓋の裏側の縁にソゲがあります。

「東の魯山人・西の半泥子」と称された川喜田半泥子の弟子  
である坪島土平による花入です。坪島土平は、三重 津市の  
広永窯において作陶しました。色絵や染付などの作品もあり  
ますが、志野、織部、朝鮮唐津と作風の幅が広いです。



14.

## 信楽花生

小山 富士夫 (古山子)

共箱

昭和42年

口径12cm 高さ17cm

高台に古山子と彫られています。  
箱には昭和42年と書かれています。

小山富士夫は、陶芸家であり、中国陶磁器研究の大家でもありました。古山子は陶芸家としての号です。



15.

## 備前耳付花入

金重 陶陽

共箱

昭和

人間国宝

径8.6cm 高さ12cm

首の部分には横に細かく筋が入り、耳が特徴的な形をしています。  
胴には縦のへら目が入っています。  
胴の窯変が見どころをたくさん作っています。  
底に「卜」の彫銘があります。  
口縁に引つきがあり、それも景色となっています。

陶陽は、岡山県出身で、備前の陶工として初めて人間国宝となりました。備前焼を再興させることに成功し、備前焼中興の祖と称されます。北大路魯山人やイサム・ノグチらとも親交がありました。





16.

## 蒔絵鼓胴

皮付

江戸時代

径10cm 高さ25cm

鼓胴には、色紙に様々な文様の蒔絵が施されています。  
縁は小さなへこみがあります。  
皮も付いております。割れや漆のハガレが見られます。  
こちらの鼓胴を納めるために作られたと考えられる特注の箱と仕覆になっています。箱の底には安政二年と書かれています。

鼓胴は能、歌舞伎や狂言などで使われる楽器の一つで、太鼓として使います。  
かつて鼓は屋外で演奏されることが多い楽器でした。  
そのため、遠くまで良く音が通るくふうが重ねられ、このような形に発達していきました。  
花入に見立てて使われることもあります。





17.

祥瑞写八角向付 10客組

永楽 即全 (16代 永楽 善五郎)

共箱

昭和 - 平成

径13cm×13cm 高さ7cm

八角の形をした大きめの向付です。口縁は口紅が施してあり、側面には様々な文様が描かれています。



18.

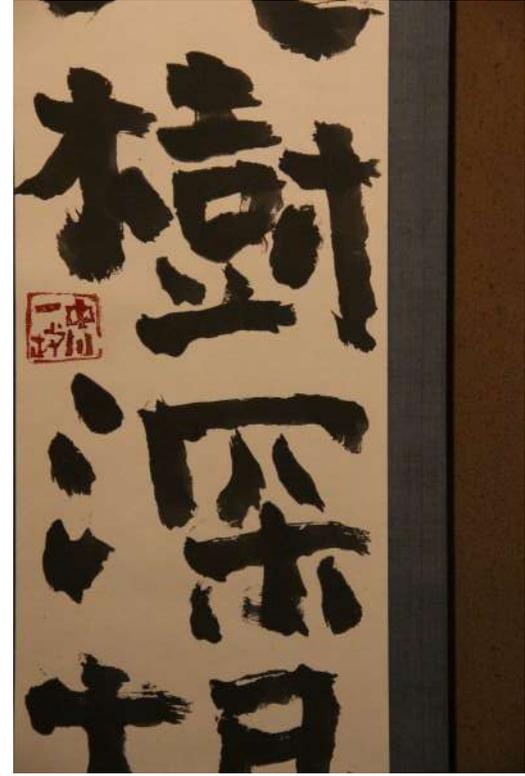
オールドバカラ 金縁霰切子馬上杯 一对

昭和

径6cm 高さ5.5cm

戦前に作られたオールドバカラと呼ばれる古い手です。  
明治期にその当時の大阪の古美術商 春海商店の主人が  
フランス バカラ社に特別注文したものが最初です。  
暖かい季節に涼しげな御茶道具を求めのお茶人のために、  
鉢などの懐石食器や水指などを注文しました。





19.

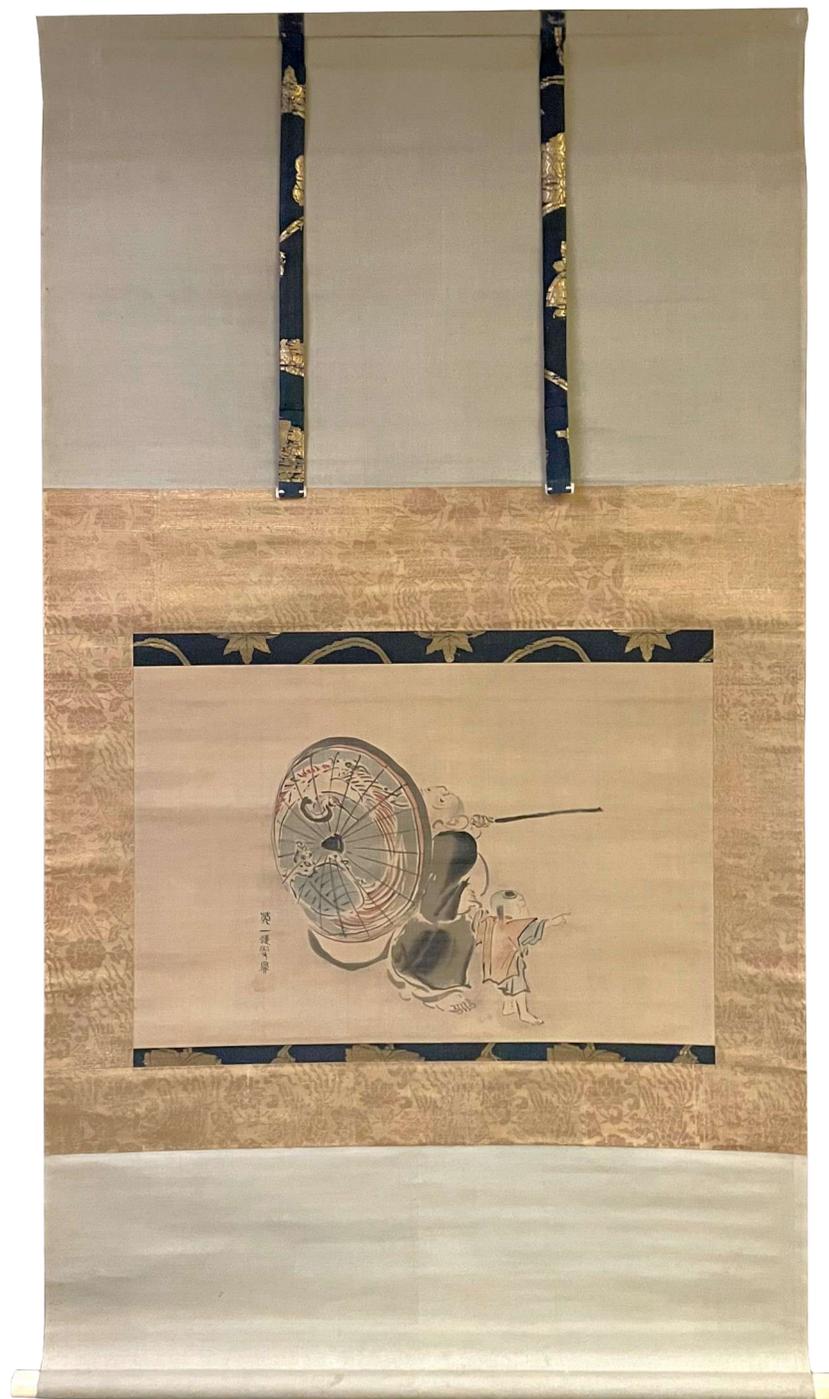
## 日傘布袋図幅

英 一蝶

絹本  
江戸時代  
幅71cm 長さ135cm

日傘を持った布袋さんと手をつないだ子どもが描かれています。  
日傘にはおめでたい意匠の鶴と亀が描かれています。

英一蝶は、京都に生まれ、その後江戸に行きました。  
狩野派に学び、その後、風俗画へと転じました。



20.

額 おむすび

須田 剋太

昭和

額：縦39cm 横50.5cm

司馬遼太郎「街道をゆく」シリーズの挿絵で知られる  
須田剋太による作品です。

おむすび、スイカやナスなどが描かれています。

右下に「おむすび 1988(年) 剋」と書かれています。

額装は須田剋太作品の額装を多く手掛けたカナタ製です。



21.

額 薔薇

須田 剋太

油彩

須田剋太鑑定委員会 鑑定書

昭和

額：縦73cm 横66cm

司馬遼太郎「街道をゆく」シリーズの挿絵で知られる  
須田剋太による作品です。

真中に色鮮やかな薔薇の花が描かれています。

右下に「剋」と書かれています。

正面からは見えないところではありますが、額装にあ  
たり傷があります。



22.

## 額 型絵染 そば猪口

芹澤 銈介

芹澤長介極シール

昭和

額：縦83cm 横78cm

様々な図柄のそば猪口が描かれています。

芹澤銈介は、収集家としても著名で、静岡にある芹澤銈介美術館には4,500点に及ぶ世界の工芸品が収蔵されています。もしかしたら、こちらに描かれているそば猪口も芹澤銈介のコレクションだったのかもしれませんが。

芹澤銈介の息子の芹澤長介によるシールが額の裏にあります。

芹澤銈介は、柳宗悦の「工藝の道」を読み、深い感銘を受け、沖縄の紅型の美しさに強い衝撃を受けて、染色家になることを決意しました。そして、染色家として「型絵染」で人間国宝に認定されました。また、染色にとどまらず、本の装丁、ガラス絵、板絵、陶器の絵付け、看板や照明などのデザインなど、幅広い分野で活躍しました。



23.

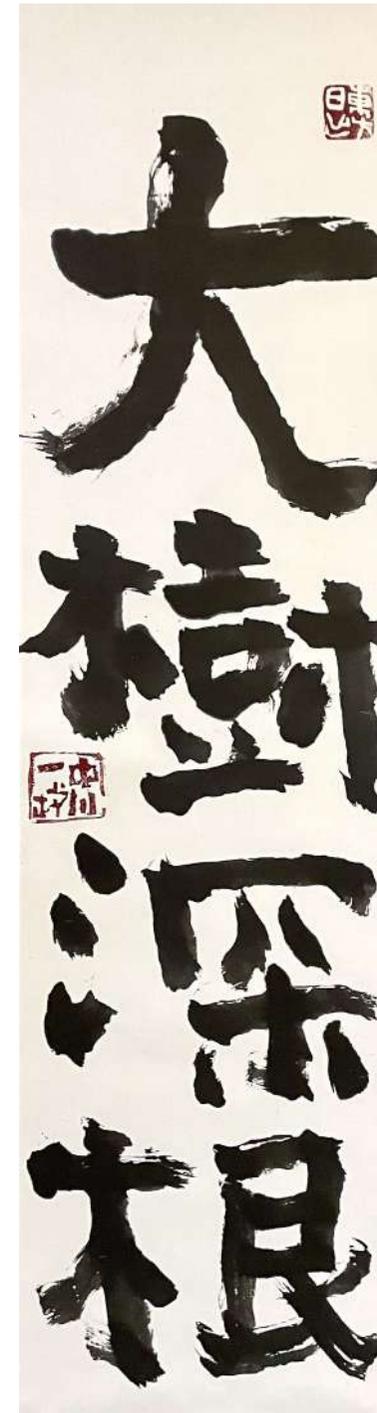
## 大樹深根字幅

中川 一政

東美鑑定評価機構鑑定委員会 鑑定証書  
共箱  
1982年  
幅39.5cm 長さ193cm

大樹深根とは、根が深くまで張っている木はその分、大きな木になるという意味です。

中川一政は日本洋画壇を代表する画家でしたが、絵画以外にも本作のような書や陶芸、装丁デザイン、随筆、詩などを制作し、多才でありました。



24.

## 額 壺中仙

熊谷 守一

熊谷守一水墨淡彩画鑑定登録会 墨跡鑑定登録証書

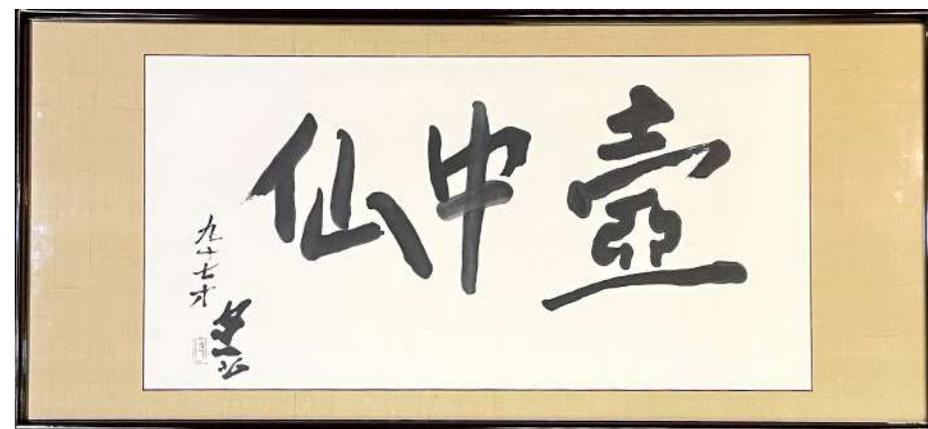
1976年

額：縦43cm 横93cm

中国 唐時代の詩人 李白の詩

白雲抱碧山  
美酒心自閑  
勿壺中仙  
壺外又有天

白い雲が緑深山を抱いています  
おいしいお酒をいただいて心は自然と閑かになります  
酒壺の中の仙人なんていわないでください  
この壺の外にも楽しみの世界はあるのですから



## **作家略歴**（五十音順）

### **永楽 即全（16代永楽善五郎）**

1917（大正6）年 - 1998（平成10）年  
14代得全の甥15代正全の子。妙全の養嗣子。三井家・三千家に入入りし数々の名品を作る。茶道隆盛と共に現代の名工の一人に数えられる。

### **金重 陶陽**

1896（明治29）年 - 1967（昭和42）年  
岡山県生まれ。備前焼名家、六家の一つ金重家の長男として父椋陽のもとで修業を積んだ。40歳前後に細工師から脱皮して桃山時代の備前焼（古備前）を手本とした茶陶備前に転じ、重厚、入念、豪放な作行きの茶具づくりに成功し、現代備前焼の再興の祖として、そのニュー・リーダーとなった。56年（昭和31）に「備前焼」の重要無形文化財保持者に認定された。

### **河井寛次郎**

1890（明治23）年 - 1966（昭和41）年  
島根県生まれ。東京高等工業学校窯業科卒後、京都市陶磁器試験場に入所。京都市五条坂に窯を築き作陶を行う。東洋古陶磁の技法による作品を制作していたが、民藝運動に関わり、実用を意識した作品に取り組むようになる。文化勲章、人間国宝、芸術院会員への推薦を辞退。

### **6代 清水 六兵衛**

1901（明治34）年 - 1980（昭和55）年  
5代六兵衛の長男。昭和20年家業の京都清水焼をつぐ。号は禄晴。伝統的な京焼の技法に釉薬や焼成の新技法を加える。31年「玄窯叢花瓶」で芸術院賞。

51年文化功労者。芸術院会員。

### **熊谷 守一**

1880（明治13）年 - 1977（昭和52）年  
写実画から出発し、表現主義的な画風を挟み、やがて洋画の世界で「熊谷様式」ともいわれる独特な様式、極端なまでに単純化された形、それらを囲む輪郭線、平面的な画面の構成をもった抽象度の高い具象画スタイルを確立した。「二科展」に出品を続け「画壇の仙人」と呼ばれた。

### **小山 富士夫**

1900（明治33）年 - 1975（昭和50）年  
中国陶磁器研究の大家・陶芸家。号：古山子。岡山県浅口郡玉島町（現・倉敷市玉島）出身。晩年に、岐阜県土岐市泉町に「花の木窯」を開き作陶。

### **須田 剋太**

1906（明治39）年 - 1990（平成2）年  
日本の洋画家。埼玉県生。浦和画家。当初具象画の世界で官展の特選を重ねたが、1949年以降抽象画へと進む。力強い奔放なタッチが特徴と評される。司馬遼太郎の紀行文集『街道をゆく』の挿絵を担当し、また取材旅行にも同行した。

### **芹澤 銈介**

1895（明治28）年 - 1984（昭和59）年  
静岡市生まれ。東京高等学校図案科卒業後、生涯の師である柳宗悦と沖縄の染物紅型に出会ったことにより型染めを中心とした道に進む。1956年、間国宝に認定。

### **坪島 土平**

1929（昭和4）年 - 2013（平成25）年  
大阪生まれ。1946年、川喜田半泥子に師事。1963年、川喜田半泥子没後に廣永陶苑を継承。大阪高島屋にて個展開催、以降、東京日本橋高島屋と共に個展開催。

### **中川 一政**

1893（明治26）年 - 1991（平成3）年  
洋画家、美術家、歌人、随筆家。東京府生まれ。洋画、水墨画、版画、陶芸、詩作、和歌、随筆、書と多彩な作品を制作した。全てが独学であり自ら「在野派」と称した。洒脱な文章でも知られた。

### **英 一蝶（はなぶさ いっちょう）**

1652年 - 1724年  
伊勢亀山藩の侍医であった多賀白庵の子として京都に生まれました。幼少の頃、一家とともに江戸に下り、画は狩野宗家の当主であった安信に学んだとされます。軽妙で洒脱な筆致により市民生活や都市風俗を描くことを得意としました。

### **濱田 庄司**

1894（明治27）年 - 1978（昭和53）年  
神奈川県生まれ。東京高等工業学校（現東京工業大学）窯業科に入学、板谷波山に師事。同校を卒業後は、河井寛次郎と共に京都市立陶芸試験場にて主に釉薬の研究を行う。この頃、柳宗悦、富本憲吉、バーナード・リーチの知遇を得る。大正9年、イギリスに帰国するリーチに同行、共同してセント・アイヴスに築窯。大正13年、帰国し、沖縄 壺屋窯などで学び、その後、栃木県益子町で作陶を開始。昭和30年、人間国宝に認定。

### **バーナード・リーチ**

1887（明治20）年 - 1979（昭和54）年  
香港生まれ。幼年は日本で過ごし、帰英後はロンドンでエッチングなどを学ぶ。1909年に再来日し、六代尾形乾山に弟子入りして陶芸の道を歩む。その後、柳宗悦、富本憲吉や志賀直哉ら白樺派同人と交友して日本の芸術の新しい動向に触れ、美術や陶磁器への関心を高めた。1920年、浜田庄司を伴って帰英、浜田と共に日本風の窯を築き、スリップウェアの研究と復活に努めた。1934年、再び来日し、益子や東京、布志名などの窯を巡り製作を。柳宗悦、河井寛次郎等と共に民藝の普及に尽力し、海外でも講演を行い、国際的な陶芸家の第一人者となる。